

神奈川県内で初！JR鶴見駅ホームドアを実現！



公明党の国会、県会、市会議員のネットワーク力を発揮

公明党鶴見支部として実現を目指してきましたJR鶴見駅のホームドアが平成30年の春から運用が開始されました！

JR鶴見駅は、1日あたり約16万人の乗降客が利用し、朝夕のピーク時間帯の混雑が激しく、ホームからの転落による人身事故が危ぶまれる状況でした。

実際に、私共にも安全対策に関する要望が多數寄せられ、ピーク時間帯も含めたホーム状況を調査すると共に、議会質問を通してホームドア設置を要望して参りました。

ホームドア設置は、鉄道事業者が主体となり、国・県・市の補助金と連携して推進される事業であり、国の予算確保が大きな課題となっていました。

そこで、平成28年3月、石井国土交通大臣に、「鶴見駅のホームドア設置に関する要望書」を提出し、その結果、JR鶴見駅へのホームドア設置予算が計上されることになりました。

公明党の国・県・市のネットワーク力により、ついに平成30年3月3日、JR鶴見駅にJR東日本として神奈川県内でも初となるホームドアが設置され、稼働いたしました。

鶴見支部の鈴木ひでし県会議員と尾崎太市会議員は、これからも鶴見区、横浜市そして神奈川県の皆様の安全安心のため全力で活動して参ります。

県会



鶴見始めるe街づくり
鈴木ひでし

<http://www.hideshi-suzuki.com>



市会



地域力アップで、元気な鶴見を!!
尾崎 太

<http://www.ozaki-futoshi.com>



災害に安心を！「かながわ版ディザスター・シティ」を実現！

「かながわ版ディザスター・シティ」

災害への備えは喫緊の課題です。200人を超す犠牲者が出て平成30年7月の西日本豪雨、土砂崩れや家屋の倒壊、液状化現象などにより甚大な被害が生じた9月の北海道胆振東部地震など全国各地で大規模な災害が発生しています。



災害対策に全力!!

【かながわ版ディザスター・シティの整備】

平成30年11月6日、厚木市にある県消防学校に様々な自然災害を想定した救助訓練ができる全国で最大規模の消防の施設がオープンしました。この施設は、近年多発している様々な自然災害に備えるため、鈴木県会議員が平成28年6月の県議会第2回定例会で「かながわ版ディザスター・シティ」として整備を提言したもので

今回整備された訓練施設では、地震による家屋倒壊、土砂災害による埋没、豪雨による浸水など、様々な災害現場を再現し、専門性・経験・能力に応じた段階的・体系的な訓練を実施することができます。消防の救助部隊が、この施設での訓練により、災害の種別に応じた活動技術を身につけておけば、万が一大規模な災害が発生しても、多くの命を救うことが可能となります。

【かながわ消防の発足】

平成28年4月、県は、大規模災害時に、県と県内全24消防本部が一丸となつて消防

平成29年2月には、連携を強化するため、県内全ての消防本部が集結し、初めの県議会第1回定例会で「神奈川消防庁」として県内の消防本部全体を統括する体制の構築を提言したものです。



がん対策がまた前進!!

県立がんセンターの充実に向け
て、鈴木県会議員が提言したこと
により「がんワクチンセンター」や
「漢方サポートセンター」が設置
されました。

そして、この4年間の新たな実
績として「アピアランスサポート
センター」と「がんゲノム診療相
談センター」の設置が実現します！

【アピアランスサポートセンター の設置】

がん医療が進歩したことで、が
ん患者の生存率は向上し、今や半
数以上の患者が治る時代となり、
治療後も患者の生活は続きます
が、手術、抗がん剤、放射線治療
などの副作用により、傷あとや脱
毛、肌の変色などで外見が変化す
ることは、患者にとつて大きな苦
痛でした。

そこで、鈴木県会議員は外見（ア
ピアランス）の変化に悩みを抱え
るがん患者を支援する体制づくり
を提言し、平成28年4月、県立
がんセンターに「アピアランスサ
ポートセンター」が設置されました。
センターでは、がん患者にとつ
て最善の方法を、相談員が有効な
情報を提供しながら、患者と一緒に
検討しています。

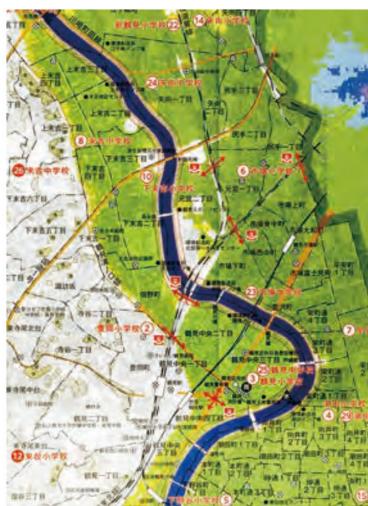
【がんゲノム診療相談センター の設置】

がんゲノム医療は、がん患者の
遺伝子（ゲノム）情報をもとに、
がん患者に適した治療を行うた
め、つらい副作用や症状が軽減で
きるとされていますが、まだまだ
理解が進んでいません。

そこで、鈴木県会議員は平成18
年9月の一般質問で県民への情報
発信や相談対応等を一手に引き受
ける、専門窓口を設けるよう、県
に求めました。県は、県立がんセ
ンターに「がんゲノム診療相談セ
ンター」を設置することを約束し
ました。



（防災・減災対策） ハザードマップのさらなる活用を



河川における洪水の危険性を表
す洪水ハザードマップは、鶴見川
にも整備されていますが、さらに
公明党横浜市会議員団は、集中
豪雨で下水道や水路があふれる、
内水はんらんによる浸水区域を示
す「内水ハザードマップ」の作成
についても提案し、平成25年から
対象地域への配布が始まりまし
た。

公明党横浜市議団の主な防災・減災実績

- 公共建築物（学校施設、市営住宅等）の耐震化
- 道路陥没防止のための路面下空洞調査の実施
- 消火栓を活用した飲料水確保
- 災害用ダンボールベッドの供給
- 小学生に防災ヘルメットの支給
- 無電柱化の推進
- 危険ブロック塀改修の補助金制度を創設

接掲示するハザードマップの見え
る化について、国と連携して訴え
ています。

学校施設へのエアコン設置

市立小中学校の普通教室へのエ
アコン設置は100%完了し、現
在は平成31年度の設置完了に向
け、特別教室への整備が進めてい
ます。

災害時に避難所となる体育館へ
のエアコン設置についても、早期実
現を働きかけています。

小児医療費助成の拡大が実現

実績

公明党横浜市会議員団は、平成4年に議会で初めて無料化を主張し、貫して制度の拡充を求めてきました。

平成7年1月、0歳の入院と通院の無料化が実現。

その後も対象年齢の拡大と所得制限の緩和を主張し、平成24年9月に小学1年生まで、平成29年4月には小学6年生まで拡大できました。

そして、平成31年4月からは中学3年生まで拡大されます。

発達障がい児・者支援の支援

実績

地域療育センターでの発達障がいの診断件数は

平成19年度の1456件

から、28年度には2960件と大幅に増加しており、相談先や支援の受け皿の充実を訴えてきました。

それにより平成29年6月、申し込み後、速やかに初回面談をするための「相談ルームいろは」が、新たに鶴見区内に整備されました。

引き続き、横浜市における発達障がい児の総合的かつ具体的な支援計画の策定を目指します。

放課後児童の居場所「放課後キッズクラブ」の充実

実績

学校施設等を活用し、留守家庭児童を含む、すべての児童を対象にして、安全で快適な放課後の居場所を確保し、児童の健全な育成のため、放課後キッズクラブの整備を推進してきました。

平成30年度までに、全小学校341校のうち294校まで拡充され、平成31年度までに全校で実施されます。



新たな斎場整備が実現

実績

高齢者人口の増加に伴い死亡者数も、20

25年には2015年

の1・3倍の約4万人になると推計されており、火葬需要に対する心配の声が寄せられています。

そこで新たな市営斎場整備の要望書を提出し、議会でも必要性を訴えたところ、2025年までに、鶴見区大黒町に東部方面斎場（仮称）が整備されることが決まりました。

鶴見駅への中距離電車停車を!!

お約束

離電車停車は、長年の悲願であり、神奈川東部方面線の乗り入れは最大のチャンスです。

これまでも議会において、①移動経路の選択肢を増やす

②事故・災害発生時の対応

③品川、東京方面など多方面へのアクセス実現などの観点から、鶴見駅の中距離電車停車用ホーム整備を訴えています。

議会改革を推進

お約束

公明党横浜市会議員団は、透明性ある改革を断行します。

①政務活動費領収書のインターネット公開

②政務活動費10%削減

③費用弁償の交通費実費清算

市立中学校で「横浜型給食」実施へ

お約束

喫食率が低迷しているハマ弁にかわり、学校給食法に則った、安価で栄養価に優れたデリバリー方式の「横浜型給食」を推進します。

（家庭弁当も選択可）

教育費の負担軽減に取り組みます!!

お約束

2019年10月より認定こども園・認可外上限月37000円の支給

①3~5歳の保育園・幼稚園・認定こども園

●認可全員無料

●認可外上限月37000円

②0~2歳の保育園・幼稚園・認定こども園

●認可住民税の非課税世帯が無償化

●認可外住民税非課税の世帯が無償化

上限42000円

この他、生活困窮状態で養育環境に課題のある子どもたちの寄り添い型学習支援や、私立高校授業料の無償化（年収590万円未満）の充実へ。